

III

でんさいの活用方法

III-1

▶ 会計ソフトとの連携



会計ソフトとの連携により、会計事務の効率化が可能です。

- ① 会計ソフト等で作成した発生記録等の請求データ取込（一括請求）
- ② 会計ソフト等で自動消込用の発生記録結果データ等のダウンロード



利用者

〈会計ソフト（会計帳簿）〉

| No | 適用 | 金額 | 債権種類 | 番号 | 支払先 | 振出日 | 支払日 | てん末 |
|----|----|-----------|--------|---------|-----|-----------|-----------|----------|
| 1 | 仕入 | 500,000 | 約束手形 | 1234567 | D社 | 2022/1/10 | 2022/3/20 | 3/20 支払済 |
| 2 | 仕入 | 1,000,000 | 電子記録債権 | | B社 | 2022/1/10 | 2022/3/31 | |

一括請求データ作成

〈一括請求データ（標準フォーマット）〉

| ヘッダーレコード | | データレコード | | | | トレーラレコード | |
|-----------|-----|---------|-----------|-----------|------|-----------|--|
| 請求日 | 請求者 | 債権者 | 債権金額 | 支払期日 | 合計件数 | 合計金額 | |
| 2022/1/10 | A社 | B社 | 1,000,000 | 2022/3/31 | 3 | 2,500,000 | |

①一括請求

②発生記録結果ダウンロード

金融機関



でんさい
ネット

※複数の金融機関と取引する場合でも事務効率化が図れるよう、フォーマットを標準化しています。

※会計帳簿との突き合わせ等を行う場合、記録番号・取引先企業の決済口座情報をキーとしてセットする必要があります。

※金融機関および会計ソフト会社等から、請求結果・記録内容のファイルの取込（会計帳簿との自動突き合わせ）等を行うサービスが展開されています（サービスの取扱有無等は金融機関により異なります）。

III-2

▶ 期日振込からの切り替え

手形以外に期日振込からでんさいに切り替えることで、支払企業は早期処理（業務効率化）が可能です。受取企業は、支払内容の確認と早期資金化が可能です。



※例えば……

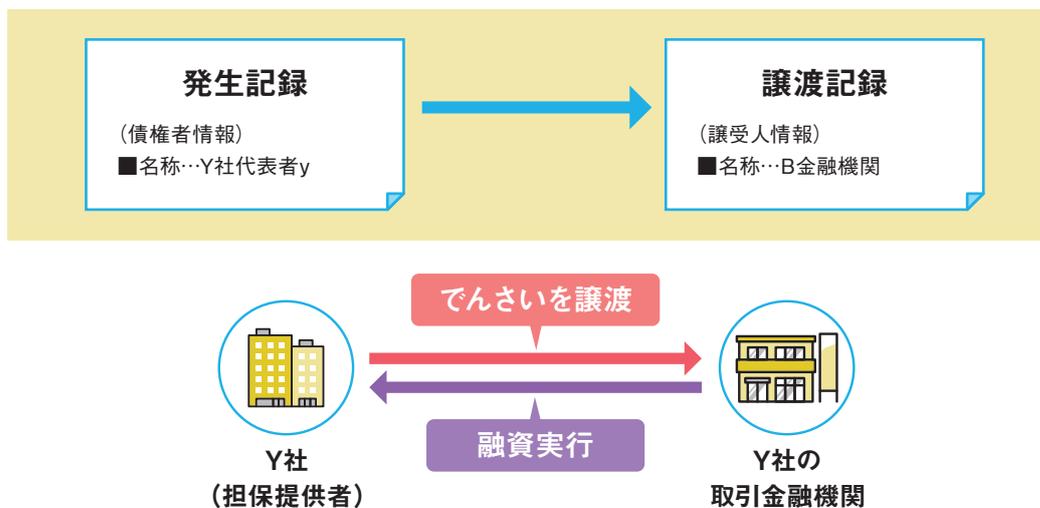
発生日：10月1日

支払期日：11月30日

上記の条件で支払企業がでんさいを発生させた場合、受取企業は10月1日以降であれば譲渡・割引にて早期資金化が可能。

III-3 ▶ でんさいの担保利用

商業手形担保のように、でんさいを担保として利用することができます（担保利用は金融機関が行う業務であり、取扱可否や方法等は金融機関によって異なります）。



III-4 ▶ 指定許可機能

記録請求の通知を受ける相手方を限定するため、「指定許可機能」があります。この機能により、取引先以外からの誤請求を防止することができます。

※金融機関により取扱可否が異なります。利用に当たっては、事前に「指定許可先」を登録しておく必要があります。

